Project No.
38 | ヘルスケア

独居高齢者向けモニタリングシステムの提供
ケアマネジメントや見守りに活用し、高齢者の地域での暮らしを支援

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 株式会社ウェルモ

コンソーシアム構成員 医療法人誠志会｜社会福祉法人慈光会｜特定非営利活動法人愛と心えひめ｜特定非営利活動法人まこと｜株式会社クオリア｜愛媛県介護支援専門員協会会長矢川ひとみ（順不同）

目 的

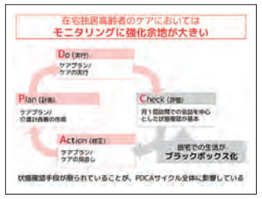
「独居高齢者の増加」と「根拠に基づく自立支援/重度化防止強化の潮流」を背景とし、実態が見えにくい独居高齢者の生活行動をモニタリングシステムにより可視化します。具体的には、独居高齢者のご自宅にセンサーを設置し、可視化したデータをケアマネジャー等が閲覧できるようにします。それを通じ、独居高齢者に対する、データに基づいたケアマネジメントや見守りの実現を図ります。

課 題

ケアマネジメントのPDCAサイクルにおいて、特に独居高齢者については、「Check（評価）」が「ケアマネジャーによる月1訪問時の、本人との会話を中心とした状態確認」に留まっており、客観的な状態把握が困難です。そのため、その方の実際の状態にあったケアが必ずしもできていない可能性があります。

解決策

ご自宅に8個程の赤外線センサーと玄関用開閉センサーを設置します。検知した生活行動データはWeb上で可視化され、Web画面はケアマネジャー等が閲覧できます。また、可視化されたデータを基にした「生活行動サマリ」も、必要に応じてウェルモから提供し、ケアマネジャー等が参考にします。



開閉センサー　赤外線センサー

検証項目

質向上
ケアプランや、ケアの内容/方針に影響を及ぼしたか

効率化
ケアマネジャーや介護サービス事業所等の業務が効率化したか

安心感 本人やご家族が安心を得られたか

取り組み内容

コンソーシアムの構築
ご参画いただける高齢者、事業者の募集は、本取組へのご理解をいただけたケアマネジャーからご紹介をいただく形で進めました。主にご参画いただいた皆さまとしては、高齢者5名、ご家族2名、ケアマネジャー3名、他事業所2事業所となりました

データ活用に向けた緊密な伴走
「生活行動サマリ」といった形での情報提供や、データとして着目すべき点の協議等を、事業期間を通じて皆さまと実施しました

成果・結果

質向上
ケアマネジャーやサービス事業所のケア内容が生活行動に影響している可能性が示され、ケアプラン等の見直しや継続判断における、大きな意思決定材料となりました。具体的には、
①「ショートステイ後の生活リズムの乱れ」が明らかになったことで、ショートステイのケアプラン組込みを行わない意思決定に繋がる
②就労継続支援事業所にて身体活動を増やす作業内容変更を行った後に「睡眠時間や質の改善が伺えた」ことで、身体活動を更に増やす方向への意思決定に繋がる　等しました。またこの他、認知症の方がご自宅の外でご自宅の鍵が見当たらずに混乱が生じた際、「ご自宅に一度入ってからまた出て混乱した」わけではなく、「ご自宅に入れていなかった」ことがデータから分かったことで、ご自宅に入るまで見届けるような送迎方法の変更にも繋がりました。

効率化
送迎の効率化への活用を模索しましたが、実装検証が短期間であったこと等から、改善にまで至ることはできませんでした。

安心感
生活行動がほぼリアルタイムで可視化されることで、ご家族から、日々の見守りにおいて安心感に繋がっているとのご感想をいただきました。

今後の見立て・意向

特に「質向上」において、成果を上げることができました。例えば、本人のご様子や、サービス事業所等からの申し送りからは落ち着いているように見えた高齢者が、可視化されたデータを見ると生活リズムが大きく乱れていることが分かり、それを踏まえた方針決定がされる事例がありました。このことから、ご自宅での生活行動を可視化することの有効性が改めて確認できました。一方で今回、主スコープから外していた転倒検知等についてニーズの強さが改めて見えてきたこと、低コスト化の優先度を下げて設置するセンサー台数を多めに設定していたこと、等を踏まえると、経済性や事業継続性観点については、今後更なる磨き上げが必要と考えています。また、皆さまの利用ご意向としても、例えば参画いただいたケアマネジャーからは、特に短期利用で最も効力を発揮するのではないか、といったご意見もいただいており、事業継続性磨き上げの際には、ユースケースの更なる整理とプロダクトの最適化を行う必要があります。

取得データ

赤外線センサーや開閉センサーにより、居室、寝室、トイレ、浴室、玄関等での動きを検知し、データ化しました。検知した回数は集計され、週・月単位での回数変化も可視化しました。また、各センサーの検知状況を基に、睡眠時間等の推定も一部実施しました。

データ活用による考察・示唆

Web画面閲覧は、どのケアマネジャーからも手間取ったという声は聞かれず、隙間時間にご覧いただく等、日々ご活用いただけました。今後の課題としては、本人や家族のご同意を、業務多忙なケアマネジャー中心にどうとっていけるか、等がありそうです。その課題の解消には、このようなシステムの認知度を高める必要があるとの声が挙がりました。

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.